第３回網走市選択する未来会議発言要旨（平成２７年１０月２３日（金））

●事務局

・戦略素案に対するパブリックコメントなどで寄せられた意見及び対応、最終戦略案について説明。

●議長

・意見結果と最終的な戦略案と事務局から説明があったが、意見・質問等ないか。

〇オブザーバー

・戦略のパブリックコメントを市民の方々からと意見をいただいたが、５年後１０年後の網走を残す戦略なので、中学生・高校生など子ども達の意見を聞いて作成しても良かったのではないかと思う。

●事務局

・市としてもなるべく広い年齢層から意見をいただきたいと考えていたが、戦略が１０月末までの策定する期限となっており、中学生・高校生から十分に意見を聞く機会がなかったというのは自覚している。内容についても議論の掘り下げも深いところまで行けていないという自覚もある。

　策定されたものをたたき台のような位置付けにして、今後、中学生・高校生の方にも出来たものを広く周知し、評価・意見などを伺う場を持っていければと考えている。

今後の課題にさせていただきたい。

〇委員

・この戦略の課題とは別に網走の将来を語る中高生、大学生などの若い世代の提案する会議などを作っていただいて、自らもメインになって、是非、提案・検討していただきたい。

〇委員

・網走に残るとすると、自分の研究していることとかを将来活かしていける場が必要であると思う。インターンシップの受入れなどの記載があるが、殆どの学生が、大手企業の方に興味があって、本州に行っている。網走に残すのであれば、研究所などでインターンシップを行えば、少しでも網走に目が向くのではないかと考える。

〇委員

・農大生も昼間人口として1,７００人いることになっているが、網走市民としての自覚がまだ足りない。今後、これをきっかけに市の内部の色んな情景にも参画していって、網走の活性化に農大生として寄与するというところを目指していただきたい。

○オブザーバー

・日経研からの話として、金融機関との関わりというところだが、このバブル図にお示しいただき、非常に意義があると思う。実際に今後、どの分野が関わってくるかということを発信していかなければならない。

基本目標２の中で、「おいしいまち網走のブランド化」という部分があるが、これまでは、バラバラに情報を発信していたというのもあるので、是非、網走市内で各業者さんも含めて統一感を持って取組み情報発信していくのが大事だと考える。

●事務局

・金融機関との関わりについては、国からも強く求められている部分で、かなり意識をしてこのバブルのチャートを作った。残念ながら４つの分野に分けると、産業と公共と教育とするとまたがる分野にうまく置けない、物理的に無理だということが解り、連携の在り方について、チャートで表すのは断念せざるを得ないのかなと考えている。

もう一つの狙いは、この戦略の文言を見て、何を中心に進めて行くかがわからないことが懸念されたので、網走は何を中心にして戦略を進めて行くかということを可視化できないかという狙いで作っているので、国でわかるようにチャートを修正してお示ししたいと考えている。

前回の会議で隘路についても、どのように進めるか議論いただいた。現在、今後５年間をどう進めて行くかを議論する政策検討会を市では進めており、その中で何故出来なかったのかという議論も含めて進めているので、この戦略の中に書き込むことは難しいが、政策検討会の中で整理していく。

９月には、内閣府平副大臣からも重要なポイントは何か、先行していく施策は何かという部分にアドバイス頂いたが、その中でも、新たな需要を喚起するもの、観光、輸出産業、新たな人の流れを喚起するもの、学校、ＣＣＲＣと言ったものがあると。それと地元の地産地消や人材育成の取組、再生可能エネルギーの取組、ここに金融機関がどう関わってくるのかというところが重要なポイントだと伺っているので、そこを最終的な文言として記載していきたいと考えている。

○委員

・全国１,８００の市区町村が戦略に取組んでいる訳だが、基本的に何を戦略的に行っていくかというとこだが、連携をどう活用して行くかというところだと思う。ＫＰＩのところも何処とどういうことで具体的に連携して、何処が中心になって動くのかというところと何時までにやるのかというところが、官からの依存脱却も含めて、この取り組みだと思う。難しいとは思うが、出来るだけ連携してこの部分は、何処と何処とが何時までにやるみたいな、具体的にして進めていくことが必要だろうと考える。

●事務局

・前回もご指摘いただいている、重要度、優先度、スケジュール感だが、前回会議でも話させていただいたが、そこを求めるのは中々難しかったというのが、庁内の本部会議での議論でもある。一つには、国の事業がどういう展開をするのか、ちょうど今、各省

の概算要求が上がってきている段階で、年末にかけて議論されてあがってくるというのがあるので、１０月末には全く間に合わない。それから地方創生に関する交付金の扱いについても、先行型と言われたものが１,７００億程度で、交付金として用意されていたものが、先の大臣会見の中では、１,０８０億を原資として半分は自治体負担という補助金のような形となってしまったことで、腰折れ感も自治体側にはある。全ての予算を網走市で用意するとはならないため、財源措置をどのようにするのか見極める必要がある。そう言う所では、優先順位をつけるというところが、難しかったところである。ただし、具体的に何から手をつけてというところは、不完全なチャートだがバブルのチャートで何とかお示しして国にも見せたいと考えている。

〇委員

・従来の縦割り行政を超えて、どういうネットワークで新しいものを見いだせるのかという可能性、仕組みづくりが私も良いところだと思うし、予算ありきの部分は確かにあって、それに規制されて動けるとこ動けないところがあるのだが、そう言った従来の枠組みを少しいじって、新しいコラボのシステムを作っていくことで、この地域創生に繋げて行くところが最終的には、お金が無くてもある程度できるところがあるかも知れないので、そういった議論を今後、委員の皆さんの意見を借りながら検討していくことが大切だと思う。

〇委員

・戦略が決まった時に、ＨＰに掲載して終わりではなく、先程もあったように、学校や企業に行って、「こういう風に進めて行きます」とか、私も正直難しくてわからない印象もあるので、わかりやすくイラストなども交えて色んな人に見てもらえるような仕組みなどもとっていただきたい。そうすれば、色んな意見も出ますし、意見も取り入れられるので、決定した後、周知活動に取組んでいただければと思う。

〇委員

・どうしてもこういう計画とか戦略とかは、難しい表現になってしまうところがあるので、簡略版を作るというところは確かに重要なところ。もう一つは、政策補助金の色んな要件に規定されるところもあるので、それに合わせて作らなければならないと言う所もある。ただ、作ったから動くというとそうでもないので、やはり動くような仕組みづくりが必要なので、動かすところに皆さんの意見や提案を提起することが活きてくることになると思うので、そこのフォローアップを大変だが考えていただいて、浸透させていくことへのご配慮をいただきたい。

●事務局

・成案もこれで終了ではなくて、説明をする場については、設けたいと思っている。従来からまちづくり宅配トークという制度を持っていて、これに限らず、市への提案でも良いのだが、３・４人の小さな集まりでも直接担当の職員が行って、お話しをする制度がある。委員のおっしゃる易しい言葉で優しく表現するというところは、一番苦手なと

こなので、手法について考えていきたいと思う。それと５カ年のことを書いているので、抽象的な表現になっていたりするところがあるが、毎年の事業展開は、４月以降になれば、具体的に説明できる部分も出てくると思うので、それらをキーワードにすると若い中学生、高校生にとって、ポイントはここだということが説明できるかも知れないので、そこについても、もう少し様子を見させていただきたいと思う。

〇委員

・戦略には、ずっと網走の課題になっていたものが記載されていて、これまで解決できなかったのに目標まで行くのかというのもある。やはり何処を選択して、何処に集中するか、そして連携していくのかという舵取りが重要だという印象である。また、こういう集まりなので、これまで行政に投げていた状況もあるが色んな団体、企業も連携して網走を良くしていきたいと思う。先日のマラソン大会も農大ボランティアにお手伝いいただいた中で、ランナーに大変感動していただいた。私も改めて連携の強さを感じさせていただいたので、重ねてそこの部分を話したいと思う。

　内容を見きれていない部分もあるが、中心市街地の賑わいの話があるが、中心市街地も何を持って、中心市街地と位置付けるのかという話が昔からある。今までの中心市街地とこれからの中心市街地のあり方も違うと思うので、そこの辺りも見極めて行かないと、網走川を中心とした賑わいのあり方も変わってくるのではないかと思う。

〇委員

・政策を作った後のケア、仕組みづくり、ネットワークの構築の仕方、その辺りを住民参画でいかに作っていくかというところが、最終的な到達目標になると思うので、アクションプログラムに導いていくのは、関係者がそれを受け止めて具体化していく、そこが一番大事だと思うので、その場の作り方もご検討いただければありがたいと思う。

〇委員

・重要なのは場づくり、アクションプログラムといったところになってくると思うが、場づくりについて、全体的にこれを進めて行くにあたり、何か想定されているところはあるか？

●事務局

・選択する未来会議委員の皆さんの任期は、２年間で委嘱させていただいている。この後、政策検討会を経て、まずは２８年度予算をどう組んでいくのか、具体的な事業の検討に１・２月位までかけて行っていく。３月の議会でそれを承認いただいて、具体的に動き出すスケジュールになるが、その後、評価に向けてどの程度の会議を持って、それぞれの業界の枠組みについては、出来ていないが、そう言う場を持つことが、地方創生の仕組みで求められているところなので、整理していきたいと思う。

○委員
・まさにＰＤＣＡサイクルのそこが重要になってくる。

●議長
・従来の政策が何故出来ていなかったのか、従来の施策のどこが実現出来たのか、この判断の下に新しい施策を作り、中間、２年間、もしくは５年の間に政策チェック、政策評価をしていくというところが、次の作業で必要になってくるところ。いずれにしても来年度以降もこれは継続すると、予算が決まってからアクションプログラムの所は、まだまだ皆さんにご意見・提案いただくと言うことです。

○オブザーバー
・私も大好きな網走が消えるという話は、悲しく思っている。そうならないようにこの会議を開催して、戦略を練っていると思う。自分の学校でも文化祭の準備に取組んでいるが、皆で一つになろうと言う時に、集中できない生徒がいる。一つの目標に向かってそれぞれの考え方があるのはわかるが、一団となって進んでいくことが大事だと思うし、まち全体でその様な雰囲気が広がって、戦略がうまく進められて行ければと思う。

○委員
・参画意欲と求心力をどうするか、これは、大学でも中学校でもどこでも同じですね。政策が空から降ってきたものだと自分の物と感じない。国から降ってきたではなく、自分達の問題と意識して消化していって、自分達がこれを作って、さらに自分達がこれで行動するのだという役割分担、責務能力も含めて具体化するのが必要です。それは皆さんからいただいた意見をどう次年度以降、どう反映させていくかということが求心力の形成だと思う。難しいと思うが、中学校に持って行って、こんな議論あったよという話をしていただき中学生には何が出来るのかという、内発的な動きに協力いただきたいと思う。また、農大生の約９割は、道外からきている。５４％は関東圏から来ている。ところが、ここの高校生は、ほとんど網走に残らないで出てしまう。つまり、網走市の人が出てしまって、首都圏の人が来てしまうという逆転した現象が起きている。この地域の人達が、高校卒業後もこの地域に残る、それからあまり越境しない高校生、この人達をいかにして押さえて行くのか、残る魅力づくりをどう作っていくのかという所が、この地域に大事だと考える。どうしたら高校生が残るのか？どうしたら中学生が地元の高校に進学するのかというところが重要な課題だと考えるし、出来れば東京農大の学生ももっと地域に残ってもらって、卒業したら網走市に就職するのだという志を持った農大生が増えてくれればと思う。

○委員
・４月から９月の宿泊者数は、前年度３％増ということで推移している。昨年４月からバスの料金が上がって、札幌から網走方面に来るのは少なかったが、今年はマラソン大会もあり、９月が１１６％と伸びている形で推移している。網走で見るとインバウンドの観光客が３０％位増えている。勿論、全国的にも４８％増えている状況であり、韓国・

中国や台湾などが主流である。台湾、香港、中国の順番となっている。そう言った面で、網走だけでなくて道東地区、帯広から釧路、知床とかを含めて東観協という協議会を作っていて、広域観光ルートというのが決まった。モデルルートということで、５年間続いて、外国人にはこういうルートが良いではないかというのを決めている。金額的には国内で７箇所、年間４億位程度なのだが、網走に来るまでは大変遠いという印象がある。

札幌は、インバウンドも増えている。宿泊も一杯で飽和状態である。道東の５つの空港のどこか一つを拠点にして、海外から何とか道東に来て欲しいということをやっている。国内では、網走は有名だが、タイや中国に行っても網走の知名度はない。イースト北海道・オホーツクという枠で、何回も毎年キャンペーンに行ってＰＲしている。特に最近の若い人は、Wi－Ｆiを使うので、そこも整備して、どこでも使える環境を道東地区一体で整備していかなければならない。空港のほか、高規格道路などの二次交通も含めてうまくやれれば良いと思う。

〇委員

・基本的に地域活性化とは、どういうモデルで想定しうるかというと単純である。経営学の三要素は、ひと・もの・かねですから。ここには、物がたくさんある。しかし、人がいない。金が無い。これをあるところから持ってくる。観光戦略という点では、ひとを引き込む戦略として重要である。先程、斜網の首長会議でも飛行機の料金が高すぎるので、水谷市長よりＬＣＣを誘致し、料金も安く８千円にするという話があった。また、東京農大からも世田谷・厚木キャンパスからの１万人の学生のインターンシップを広域で受け入れる話もさせていただいた。しかし、実習先がない。そう言った点では、農協さんにも協力を頂かなければならないし、網走だけでは出来ないので、斜網地区の自治体全部にお願いしてその人達を受け入れてもらう。そのためにも、ＬＣＣを飛ばすことは重要である。という話は、議論していた話なので、ひとつの地域創成の形で総合振興局にも協力していただきながらやっていかなければならないと考えているし、多面的な観光政策の展開にもなるのではと考える。

〇委員

・色々な話の中で網走の魅力が話されたが、農業・水産業・観光の資源に恵まれているところなので、かなり有利なのではないかと考えている。十勝は、海の部分が欠けているので、網走は昔から三つの要素がある。漁業は漁業の方に守ってもらう。

周辺の農業は景観も重要であるし、外国人旅行者は一面の雪に倒れて形を作って喜んでいる。そこも魅力になるではないかと思っている。

農業関係が元気になると、ビートを使うトラック業、トラックの整備工場、農機具の整備工場などにも波及している。それぞれの業種が景気良くなるとまちの中の活気が出て、就職先の企業も出てくる。就職する部分がなければ、中々難しい状況になると考える。そう言うところをお互いにフォローして「住みよいまちに」していかなければならない。総合戦略の中で、輸出の部分は私の所も長いもの輸出をサンフランシスコ、ニューヨークなどに行っているが、これは、市長が先頭に立ってやっていただいているし、インターンシップの部分も毎年、高校・中学とやっている。小学生は、施設見学とかや

っている。他の業種から農業の短期間研修とかお願いされることもあるし、当然、農大生も農作業をお手伝い頂き、非常に忙しい時には、頼りになる存在であるし、各種研究においても助かっている。やはり、若い人が集まってくれないとまちに活気が出ないと思う。東京農大、そして日体大の関係もあるので、網走は恵まれているのではと考えている。

○委員

・ここの基幹産業である農業・水産業に活気がなければマイナスの波及効果になるとも言える。プラスの波及効果で、農大生を含めて若者の雇用の場の創出にも繋がるので、そこが重要だと考える。ただ、先程のネットワークという部分からすると例えば農業×観光という形で新しい価値が生まれる可能性がある。ただ、気をつけないといけないのは、農業の現場から言えば、農作業の足手まといになるとか、色々支障が出てくるような仕組みは避けなければならない。そう言った意味で農大生のインターンシップの受入れも斜網の５市町で連携して仕組みを考えようという話になっている。これは広域的な取組の戦略自体に載りますし、斜網地区では、包括的連携協定は網走市だけだったのだが、市長の提案で斜網地区の全自治体と包括的連携協定を結び、より強固な大学との関係を築くということで内定したので、裾野を広げて行きながら活性化策を模索しながら進んでいることになるかと思う。

新価値創造ということも地域活性化、観光要素として非常に大切なことだと思う。このことについては、外から来ている農大生や中学生とか若い世代が、柔軟な思考力があるので、どんどん採用できるような意見があればと思う。

○オブザーバー

・北海道についても、網走市と同様に１０月末までに戦略を策定することにしている。道の戦略なので全道版だが、その中に振興局ごとの地域戦略というものが盛り込まれている。このオホーツクというのは、非常に農林水産業が強いということで、振興局別に見ると麦については、十勝に次いで第２位、漁業については第１位、林業についても木材製品の出荷額で第１位である。しかし、農林水産業の加工度合いを示す指標の一つでありま す、食品工業の付加価値率があるが、全道１３位と下から２番目となっている。やはり農水産物の付加価値化を図るということが、産業・雇用の創出を図るという点からもポイントになると考えている。また、先程の観光についても流氷、知床というような優れた自然があるので、豊富な資源を活用して、オホーツク人を呼び込む、オホーツクの地域戦略としては、国内外への販路拡大による農林水産業の強化、ブランド化を活用した食関連産業の振興、オホーツク地域の来訪促進というような三本柱でオホーツクの地域戦略を組み立てている。道の戦略についても、網走市の戦略と非常に重なる部分があり、合致しているので、オホーツク総合振興局としても網走市と連携しながら戦略の実現・実行について取組んでいきたいと考えている。

○オブザーバー

・私どもは、日本全国の戦略の策定状況も見ている。網走市は策定段階、準備段階でも

きちんと取組んでいる。他の自治体では、役所で素案を作って、外部団体を呼んで説明して終了というケースもある。網走市の場合は、素案を作って、市民への意見を聞いて、パブコメも求めてと戦略を策定するプロセスがきっちりとされた作り方となっていると思う。内容的にも網走の特徴を踏まえた意味での内容となっているので、是非、施策の実行にあたり、実効性を高めるよう引き続き取組んでいただきたい。私達も参画できるところには、協力していきたいと思う。

●議長

・意見については、終了したい。事務局から何かあれば。

●事務局

・今後のスケジュールについて、説明する。本日頂いた意見等を精査し、修正等も加えた形で、庁内で本部会議を開催して、１０月３０日までには、網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略を完成させる予定である。戦略策定後も委員の皆様においては、「取組内容の進捗状況」、「ＫＰＩの達成状況など」について、定期的に集まっていただき、色んな議論していきたいと考えているので、引き続きご協力の程をお願いしたい。

●議長

・１０月３０日までにこれを出させていただくということでご了承いただきたい。今後は、また改めて、会議の開催について通知させていただく。

～第３回選択する未来会議終了～